

各中・高等学校における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定
フローチャート（案）

1 〈検討体制〉

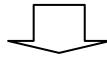
設定過程に外国語担当教員全員が参加し，育成したい能力や生徒像，学習指導要領に基づいた指導と評価の方法を共有する体制を構築する



2 〈段階の設定〉

卒業時の学習到達目標を設定し，そこに到達するためにどのような段階で学習到達目標を設定することが適切かを検討。

（段階例）・学年ごと ・学期ごと ・単元ごと



3 〈設定方法〉

- ・各学校で実際に行われている学習活動をベースに設定する方法
- ・ベースとなる枠組（既存の「CAN-DO リスト」等）を参考に各学校に対応した形に直し，学習到達目標として設定した上で，それに学習活動をあてはめていく方法

〈能力記述文の作成〉

- ・4 技能別に何ができるようになるかを「～することができる」という具体的な文で表す



4 〈指導と評価の計画等への反映〉

- ・「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標を年間指導計画に位置づけ
- ・設定した目標の達成度をどのような方法で検証し，評価するかを計画

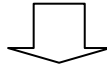


5 〈単元計画への反映〉

- ・「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標と連動した年間指導計画に基づいて，各単元における目標に対応した，学習活動，評価方法等を計画
- ・教科書を中心に，到達目標に沿った適切な教材を活用した学習指導を計画

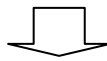


授業を行う



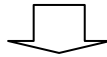
6 〈評価〉

- ・評価計画に従い，学習活動の特質等に応じて，エッセイ，パフォーマンス，インタビュー等，その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法で実施
- ・単元等のある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において評価。さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめ，評定に総括



7 〈達成状況の検証，学習到達目標の見直し〉

達成状況を検証し，必要に応じ，指導や評価の方法を見直す。さらに，設定した目標が適切であったかどうかを検討し，必要に応じて見直す



3 〈能力記述文の作成〉に戻る